



Title	ベゼクリク出土ソグド語・ウイグル語マニ教徒手紙文
Author(s)	吉田, 豊; 森安, 孝夫
Citation	内陸アジア言語の研究. 2000, 15, p. 135-178
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/18347">https://hdl.handle.net/11094/18347</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# ベゼクリク出土ソグド語・ウイグル語 マニ教徒手紙文

吉田 豊・森安孝夫

## 第一章 導論

### 1. はじめに

中華人民共和国新疆ウイグル自治区のトゥルファン盆地にあるベゼクリク千仏洞は仏教遺蹟として有名である。しかし、その石窟寺院のいくつかは、実際にはマニ教＝仏教二重窟、すなわち本来マニ教窟だったものを仏教窟に改修したものである。この事実は、1986～1987年度の三菱財団人文科学研究助成金並びに1990年度の文部省科学研究費補助金によって行なわれた我々の現地調査において確認され、また森安孝夫『ウイグル＝マニ教史の研究』（『大阪大学文学部紀要』31/32 合併号、1991。別刷：京都、朋友書店、1991）第1章で実証的に詳論されている。

ところで、吐魯番文物管理所は1981年にベゼクリク千仏洞を発掘調査し、新たに8件のソグド語・ウイグル語の手紙文を発見していた。これらの手紙文はいずれもマニ教徒に関係するものであり、その中央アジア史研究上の重要性は、それらが中華人民共和国の一級文物(国宝)に指定されていることから知られる。我々は上記の現地調査に際してこれらの文書を瞥見・調査する機会を得ていたが、国宝級の文物資料を外国人である我々が中国側研究者に先んじて研究発表することは許可されなかった。そこで我々は1988年5月に新疆ウイグル自治区文化庁の許可のもと、文書所蔵機関である吐魯番文管所と協議書を交わし、これらの文書を中国側研究者と共同で研究・出版することとした。

その後、日本側と中国側が個別に研究を進め、日本側は1996年に最終原稿を

中国側へ送付した。しかし中国側の研究者・出版社の事情から刊行は予定より大幅に遅れ、ようやく今年(2000年)1月に『吐魯番新出摩尼教文献研究』(北京, 文物出版社。以下『研究』と略す)として出版されることとなった。カラーのものも含めて、予想以上に美しい図版が付けられたのはまことに幸いであった。

『研究』には吉田によるソグド語の手紙のテキスト・翻訳・訳注・語彙, 森安によるウイグル語の手紙のテキストと翻訳以外に, 関係の専論として榮新江の「<sup>(1)</sup>摩尼教在高昌の初傳」, 柳洪亮の「吐魯番勝金口北区寺院是摩尼寺嗎」<sup>(2)</sup>, 吉田の

(1) 榮新江はこの論文の注釈(p. 216, n. 1)で看過し得ない見解を示している。まず, ベゼクリクの最も有名なマニ教窟である現 38 窟(グリユンヴェーデル編号の第 25 窟)の 5 つの銘文を森安がマニ教壁画と直接に関連づけた(『マニ教史』pp. 18-24 参照)のに対し, 榮新江はそれらの銘文の年代を壁画より晚いとするのである。しかし, *tapmīš qya* という人名が 2 度現われること(銘文③, ⑤), それが記された位置から判断して, 壁画を描いた当初から存在したとする森安の考えを改める必要はないと考える。また榮新江によれば, 1996 年にこの窟を訪問した P. O. Skjaervø 氏が, 森安のいう銘文④(正面の壁画の下方にある朱色の帯の中に見えるもの; 『マニ教史』p. 20 参照)の文字について, トゥムシュク語を表記する北道のプラーフミー文字に似ていると指摘したという。しかし, 銘文④がウイグル文字であることも一目瞭然であり, Skjaervø 氏の指摘は全くの誤解である。確かに個々の文字が, 一字一字別々に縦書きされていることは奇妙だが, 銘文⑤や森安『マニ教史』Pl. XIV に掲載されたアルファベット表に見られるように, 類例がないわけではない。何よりも, ウイグル文字ウイグル語で確実に解読・解釈できる以上, あえてプラーフミー文字に結びつける必然性は全くない。ここから得られる教訓はむしろ, Skjaervø 氏のような優秀な研究者でさえ, 銘文の文字について誤った判断を下すことがあるということであり, この種の銘文の判読がどれほど難しいかということでもある。判読しにくい文字を我々研究者が, 自分になじみの深い文字と判断してしまうという危険性があることを常に念頭に置いておかなければならない。[吉田]

(2) 中国の晁華山氏は, 森安がトゥルファンにおけるマニ教 = 仏教二重寺院の存在を指摘した『マニ教史』を発表した約 1 年後から, トゥルファン盆地の仏教遺蹟中には極めて多数のマニ教窟がベゼクリクのみならずトヨク石窟やセンギム石窟などにもあり, それはマニ教研究史上屈指の発見であるという大々的キャンペーンを中国国内のマスコミを通じて開始する一方, 『マニ教史』の成果を曲解した論文を発表し始めた。しかしながら, 森安によってマニ教 = 仏教二重寺院と確実に証明されたトゥルファン盆地内の石窟寺院はベゼクリク石窟寺院中の第 38 窟(グリユンヴェーデル編号の第 25 窟)と第 27 窟(グリユンヴェーデル編号の第 17 窟), 及び高昌故城の α 寺院遺蹟だけであった。もちろん, ベゼクリクにはなおいくつものマニ教窟が存在した可能性を指摘し, その有力候補として第 35 窟(グリユンヴェーデル編号第 22 窟)と問題の 8 件の

「柏孜克里克摩尼教粟特文書信的格式」が含まれている。さらに森安と侯世新による古文書学的情報をまとめた「新出摩尼教書信文献文書情況一覧表」と吉田による「柏孜克里克千佛洞出土の粟特文佛經残片」が各々付録1及び2として末尾に添えられている。日本語の原稿を中国語に翻訳したのは柳洪亮氏であった。

ただし、刊行された『研究』には二つの大きな問題が残ることとなった。第一の問題は、文書のローマ字転写テキストの誤植である。第二の問題は、文書テキストの日本語訳文が中国語に翻訳された際、必ずしもその文意が正確に伝えられていないことである。これらの問題は、ソグド語・ウイグル語の転写に際して特殊な文字を多用する必要があるにもかかわらず、我々自身による校正の機会は吉田担当部分の中文訳の一部を除いて与えられなかったことに起因する。翻訳出版という事情では不可避とはいえ、これらの問題を未解決のままに放置することは学問的には好ましくない。

これら二つの問題を同時に解決するには、我々が用意した原稿を日本語版として提出することが最も容易である。そこで本稿では、『研究』で我々が担当した部分のうち、最重要と考えられるソグド語とウイグル語の手紙のテキストと

---

ノ マニ教徒手紙文が見つかった第65窟(グリエンヴェーデルは未発掘ゆえ番号なし)とを挙げておいた(『マニ教史』pp. 28-29)。さらに吉田は、ベゼクリクの第8窟も明らかにマニ教窟であることをマニ文字銘文の存在から実証した(吉田豊「新疆维吾尔自治区新出ソグド語資料」『内陸アジア言語の研究』6, pp. 58-59)。しかしながら、トヨク石窟やセンギム石窟にマニ教窟が存在したことを、文字資料によらず図像学的観点のみから主張する晁氏には、我々は賛同できない。『研究』に収められたセンギム石窟に関する柳洪亮氏の論文は、この点で我々の見方にきわめて近いものである。また、トヨク石窟についても、既に山部能宜氏によってクリアな晁説批判が行なわれている。Cf. N. Yamabe, "The implications of the "Manichean" caves at Toyok, Turfan, for the origin of the *Guan wuliangshou jing*." In: D. Tokunaga (ed.), *A Comprehensive Study of Rennyō*, Kyoto 1997, pp. 280-250 (reverse pagination). なお、森安は1998~1999年の在外研究中、ロンドン大学のSOASとベルリン科学アカデミーにおいて講演を行なった際、この問題にも触れ、晁華山氏並びにドイツの故クリムカイト教授がトゥルファンに多数のマニ教窟が存在すると主張してきたのは行き過ぎである旨のコメントをした。Cf. T. Moriyasu, "The West Uighur Kingdom and Tun-huang around the 10th-11th centuries." *Berichte und Abhandlungen der Berlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaften* 8, 2000, in press. [森安]

翻訳を發表することにした。文書の写真や注釈などについてはなお、日中合作の『研究』に依拠する必要があるが、ソグド語の手紙の解釈、ウイグル語の手紙のテキストと解釈については、今後は本稿を参照して頂くよう希望する。なお本稿だけを読んでも、件の8通の手紙に関する研究経過や歴史的背景がある程度理解されるように配慮して、『研究』の記事といくらか重複することを顧みず、ここに出版までの経過を説明し、さらに「新出マニ教徒手紙文の内容と価値」並びに「出土地点と文書番号の変遷」なる項目も加えることにした。また、最終原稿提出後新たに發表された論文や、この間に得られた新知見は補注として追加しておいた。

ついでながら付言すれば、ソグド語の手紙文の内容に関するいくつかの問題については、吉田が別に稿を改めて論ずる予定である。また森安はここに収められた手紙も含めて、世界各国に散在するウイグル語の手紙文書についての総合的な研究(仮題『ウイグル文手紙文書集成』)を準備しつつある<sup>(3)</sup>。本稿におけるウイグル語手紙文のテキスト転写は、将来の総合的研究の準備として、『研究』に提示したものに若干の改訂を加えたものである。本稿では特に欧米の研究者の便宜を考えて、その新しい転写方式と、若干のテキスト注とを英語で掲載する。

## 2. 新出マニ教徒手紙文の内容と価値

『研究』並びに本稿の対象となった8件の文書は、中央アジアのマニ教徒が残したほぼ完全な手紙であり、3件は現在では死語となっているソグド語の手紙(手紙A, B, C)、5件は古代ウイグル語の手紙(手紙D, E, F, G, H)である。出土地点はベゼクリク千仏洞第65窟[次節参照]の仏教窟内壁の裏側であるといわれているので、多分ここもマニ教窟を仏教窟に改修した二重窟であったと思われる。現在これらは吐魯番文管所(=吐魯番博物館)に所蔵されている。

---

(3) Cf. 森安孝夫「欧州所在中央アジア出土文書・遺品の調査と研究」『東方学』99, 2000, pp. 125, 131-132.

以下に、8 件の手紙につき、おおよその内容を、文書番号順に列挙する。ちなみにマニ教徒は五階級に分かれ、第一位は慕闇(モジャーク)、第二位は払多誕(アフターダーン)、第三位は黙奚悉徳(マヒスタク)、第四位の一般僧侶は阿羅緩(アルダーワーン)で、その下にいる俗信徒である褥沙彥(ニゴージャグ)が布施によって僧侶階級全体の生活を支えている。全マニ教世界は12の教区に分割され、各教区に慕闇が1人、払多誕が6人、黙奚悉徳が30人いることになっている。<sup>(4)</sup>ベゼクリクの手紙文(A, B)に現われる慕闇は、「東方(教区)の慕闇」と呼ばれており、手紙に現われるその他のマニ教徒もこの教区に属すると考えられる。

**手紙 A [81TB 65: 1]** 135 行、ソグド文字、ソグド語。ある地方のマニ教団の長である払多誕シャフルヤール・ザーダグから、高昌 Qočo 地方のベゼクリクにいて西ウイグル王国全体のマニ教団を統括している東方教区の慕闇マー・アリヤーマン・プフルに宛てられた新年の挨拶文。慕闇に対しては最大級の賛辞が送られる外、冬の首都高昌にいるウイグル王とその一族、そしてさらに慕闇を取り巻く払多誕以下の高級僧侶から俗信徒代表に至る教団関係者に対しても、挨拶がなされている。差出人である払多誕の周囲にはテギン(王子)の称号を持つ人物を始めとするウイグル貴族がいるので、手紙の発信地もウイグル王国の重要な地方であったにちががなく、その候補の筆頭は天山北麓にあった夏の都ビシュバリクである。この手紙と次の手紙 B には、直径約 5 cm の丸い朱印が押捺されている。手紙 A では、紙縫と行下げがある部分に、2 箇所ずつ押捺されている。印影は、円形の内側を 4 本の線で区切り、中央にできた正方形の中には人の顔らしいデザイン、その周りの 4 個の円弧には文字らしいデザインが見える。しかしどちらも十分鮮明ではないので、確実ではない。

**手紙 B [81TB 65: 2]** 79 行、ソグド文字、ソグド語。Tudh 城のマニ教団の長である払多誕マーニー・ワフマンから、手紙 A と同じ慕闇に宛てられた手紙。やはり慕闇に対しては最大級の賛辞が送られるほか、マニ教徒にとって最も大

---

(4) 詳しくは森安「マニ教史」pp. 71-72 参照。

事な月である十二月(これを戒月<sup>(5)</sup>という)と正月元旦に果たした宗教上のお勤めの具体的内容を報告している。日付は正月六日月曜日である。この手紙には6箇所に朱印が押捺されている。それらは、行下げがある部分と、それ以外の場所に適当に散らばって捺されていて、そのあり方は手紙Aとは少しく異なっている。印影は手紙Aのものとはほぼ同じであるが、中央の正方形の中のデザインは明瞭で、人の顔が確認できる。これは類例から判断して、マニの顔であったと考えられる。残念ながらここでも4つの円弧の中の文字らしきものは判読できない。

**手紙 C [81TB 65: 3]** 29行, ソグド文字, ソグド語. シャーフ・ウイスプフルからフワル・ザーダグ宛ての手紙. 差出人の上には教団の第三階級に当たるマヒスタクがいることが書かれているので, 差出人は第四位の一般僧侶であろう。

**手紙 D [81TB 65: 4]** 23行, ウイグル文字, 半楷書体, ウイグル語. ウイグル語の手紙の定型的挨拶文を多く含み, キャラヴァンで往復するパイ・アルスラン尊長というマニ教僧侶のメッセンジャーが登場する. 非宗教的な純粹の商業書簡とはいえないかもしれないが, 前近代においては僧侶が商業に従事するのはごく普通にあることである. いずれにせよ, キャラヴァンに手紙や商品・贈答品などを託す先駆的郵便制度があり, 一般商人のみならず教団関係者も大いにそれを利用したことが窺える重要な史料である. 古代チュルクの諺が引用されているようであるが, *türkää* ではなく *türükää* と読みとったのはウイグル文字文献では恐らく初めてのことであり, 未だ推測の域を出ていない。

**手紙 E [81TB 65: 5]** 30行, ウイグル文字, 半楷書体, ウイグル語. ウイグル

---

(5) 戒月については、次の2論文を参照。森安「ウイグル文書簡記(その二)」『内陸アジア言語の研究』5 (1989), 1990, pp. 81-88; T. Moriyasu, "On the Uighur *čxšapt ay* and the spreading of Manichaeism into South China." In: R. E. Emmerick, W. Sundermann and P. Zieme (eds.), *Studia Manichaica. IV. Internationaler Kongress zum Manichäismus, Berlin, 14.-18. Juli 1997*, (Berichte und Abhandlungen der Berlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaften, Sonderband 4), Berlin 2000, Akademie Verlag, pp. 430-440.

ル語の手紙の定型的挨拶文を多く含み、かつマニ教徒独特の挨拶の文句を持つ。内容は宗教的なのか商業的なのか、迷うところであるが、18行目に「供養像」という語が見えるので、マニ教団に関わる用件も問題になっていることは間違いない。

**手紙 F [81TB 65: 6]** 33行、ウイグル文字、半楷書体、ウイグル語。差出人はラーイマスト・ムルワー・シャーハーンチというマニ僧で、受取人も「聖なる尊長」の称号を持つマニ教の高僧と思われる。マニ教徒の手紙独特の挨拶の文句を含むが、内容は商業上の取引が主になっているのか、それともマニ教団で使う物資の調達に関するものなのか決定できない。

**手紙 G [81TB 65: 7]** 4行、ウイグル文字、半楷書体、ウイグル語。クトルグ王子というウイグル貴族よりインチュ・タシュ尊長と呼ばれるマニ僧宛ての手紙。キーワードはバシュ・オゲ城またはバルス・オング城。バシュは「頭」、オゲは高官の称号、バルスは「虎」、オングは「母」の意味であるが、中央アジアに適当な都市を比定できない。

**手紙 H [81TB 65: 8]** 7行、ウイグル文字、半楷書体、ウイグル語。テュズン・テングリム・タルカン宛ての手紙。タルカンという有名な称号が男性だけのものではなく、女性にも使われることを証明していて興味深い。

一般にトゥルフアン出土文書は何語のものであれほとんどが断片であるが、今回の手紙文は洞窟の特殊な場所に秘蔵されていたため、トゥルフアン文書としては破格に保存状態が良いうえに、8件中6件が長文である。マニ教徒の手紙文がこれだけまとまって出土したことは世界的に見ても異例であり、その内容は勿論、テキストの発表自体に非常に大きな意義がある。

以上8件の手紙はいずれも西ウイグル王国時代(9~13世紀)のものであり、森安が解明したトゥルフアンに於けるマニ教の盛衰の歴史を参考にすれば、10世紀頃に遡るものと判断できる。そのことによって次のようなことが指摘される。

言語学的には、既に死滅したソグド語の資料が大幅に増えるだけでなく、ソ

グド語としては最も遅い時期に属する 10 世紀前後の実態が従来にも増して明らかになってくる。例えば支配者の言語であるウイグル語の影響が、公的なものより私的な手紙に強く現われていることなどは、社会言語学的にみても興味深い現象である。また、類似の手紙が断片としてトゥルファンなどの遺蹟から出土しており、今回の研究対象となった完本と比較することによって、それらの理解が飛躍的に発展する。特にウイグル語については類似の手紙が同時期のトゥルファン・敦煌両文書群の中からも相当数抽出・発表されており、書式などの比較を通じて従来不明部分が解明されるのである。

また、歴史的にも、10 世紀の西ウイグル王国とマニ教団との関係、マニ教団・マニ教徒の日常的活動(宗教儀礼・信仰生活、遠隔地商業など)に関する情報を伝えるもので、第一級の史料価値をもつといえる。

### 3. 出土地点と文書番号の変遷

『研究』並びに本稿で扱うマニ教徒の手紙の出土地点は、ベゼクリク千仏洞第 65 窟である。その第 65 窟とは、『研究』の前言, p. 2 に指摘されているように『中國新疆壁畫全集 6 佰孜克里克・吐峪溝』(中國美術分類全集), 瀋陽・烏魯木齊, 遼寧美術出版社・新疆美術攝影出版社, 1995, p. 11, Fig. 10 に見えるものである。ここで注意していただきたいのは、ベゼクリク千仏洞の窟番号は、かつてグリェンヴェーデル(独), スタイン(英), オルデンブルク(露)らが与えたもののみならず、新中国になってからも何度も改編され、時に大きな混乱を生じていることである。いま問題となっている第 65 窟は、1990 年代半ば以降に吐魯番地区文物管理所によって付けられた最新番号によるものであり、8 件の文書には現在、81TB 65: 1 ~ 81TB 65: 8 という文書番号が付けられている。このうち 81 は 1981 年出土を意味し、TB は Turfan, Bāzāklīk の略号であり、65 が窟番号である。しかし、1980~1981 年のベゼクリク発掘を最初に報じた吐魯番地区文物管理所「柏孜克里克千佛洞遺址清理簡記」(『文物』1985-8, pp. 49-65)では我々の手紙文 8 件(当該論文中では全て「粟特文」とされる)の出土場所は

第 21 窟となっており、柳洪亮「柏孜柯里克石窟年代試探」(『敦煌研究』1986-3, pp. 58-67)でもそれと同じであった。一方、我々が最初にこれらを調査した時点での文書番号は 81TB 60: 1 ~ 81TB 60: 8 となっていた。すなわちその時点では、出土場所は第 60 窟と呼ばれていたのである。1991 年に出版された吉田豊「新疆维吾尔自治区新出ソグド語資料——1990 年調査旅行報告——」(『内陸アジア言語の研究』6, pp. 57-83) の p. 63, 並びに森安『マニ教史』の Pl. XVII b の図版説明中で言及した文書番号はいずれもこれに依拠している。しかし、森安が『マニ教史』を執筆中の 1990 年に中国より届いた新疆维吾尔自治区博物館(編)『新疆石窟 吐魯番伯孜柯里克石窟』(新疆人民出版社, 上海人民美術出版社, 1989)には、また新しい石窟番号が掲載されていたので、『マニ教史』の Fig. 1 としてそれを転載した, cf.『マニ教史』pp. 9-10 & n. 4, p. 28 & n. 86. そこではこの窟は第 02 窟となっていた。吉田, 前掲論文, p. 58 & n. 5, p. 63 & n. 17 でもこの事実注意到を促し、今後はこの番号こそ扱べきものと予測した。ところが実際にはこの予測は覆され、その後にもまたや石窟番号の改変があったのである。このようにめまぐるしい石窟番号の変遷の事情は、何度中国側にこれを尋ねても要領を得なかったが、いずれにしても件の手紙文書の出土地点が同一の洞窟を指している点では矛盾がない。この窟は、観光客としてベゼクリクを訪れた場合、駐車場から最初に下りていく階段を下りきった所の左手に、ほとんど破壊された形で 3 つ並んでいる石窟の一番手前の窟である。

これらの手紙文書が発見された具体的な位置については、森安と吉田は別々の情報を得ている。ともに情報源は発掘当時の吐魯番文管所所長であったアジ氏である。森安は第 65 窟(旧第 02 窟)の隣接する第 64 窟(旧第 03 窟)側の内壁の裏側であると聞き、吉田は第 64 窟(旧第 03 窟)の側壁の小さな穴の中に差し込んであったと聞いている。いずれにせよ、単に砂の中に埋もれていたのではなく、なんらかの意図をもって隠されていたものが、千年の時を経て出現したとみなすべきであろう。

因みに、このような窟番号の変遷によって、森安がマニ教 = 仏教二重窟であ

ることを実証したグリユンヴェーデル編号の第 25 窟と第 17 窟についても、若干の変更があった。柳洪亮「柏孜柯里克石窟年代試探」ではそれぞれ第 52 窟ならびに第 41 窟と呼ばれていたが、その後は一貫して第 38 窟ならびに第 27 窟となって定着している。

## 第二章 ソグド語のテキストと和訳

以下にソグド語の手紙 3 通(A, B, C)のテキストと和訳を掲げる。ソグド語のテキスト中の〔角括弧〕は文書の破損部を、(丸括弧)は部分的な破損部で文字の残画が見えている部分を示す。和訳では(丸括弧)は訳文を読みやすくするために補った部分であり、テキストに対応する表現は存在しない。上付きの小さい数字はテキストの対応する行数を示す。テキストでも和訳でも、〈鍵括弧〉は行間に挿入された部分である。また\*\*\*は意味が不明で翻訳ができなかったことを示す。詳しくは『研究』の方の注釈を参照して頂きたい。

### 手紙 A [81TB 65: 1]

#### テキスト

- 001 ʼt βγ'nw 'nywnw MN βγ'yšty (')[spt'kw pmbŷrty? xwty]  
002 wyn'ncykw y'n βxšyny βγ'y o pwt(yš)[ty 'pš'γrywy ZY pncw]  
003 mrδspnty 'nδysn 'δry 'xšywnytw βγ'yšty 'spt'kw [ryz]  
004 pty'mny o rwxšny δyny fmy 'krt'kw wnwn'kw y'xy βγ('ny)kw  
005 xwty 'yw p'ryk γwβt'k(w) [Z](Y)[ ''](f)[ryt'](kw) pr 'pw ''mykw  
006 (β)γ'nykw ''fryw'ncykw 1-LPwty MN 'pw wyws 'βz-y'  
007 (w)xnšny o RYPWty MN kw 'pw βry'm wyspšyry s'r  
008 pmwyny ZY 'pw ptšm'rty MN pnty šyr'kw (y'n)[ δβryny?]  
009 ZY MN δwry kw ''ykwncykw nwšy (')[z-w'n s'r pr'nyny ZY]  
010 pry'tr m'xw RYPWmykw kšt'rt' βnt'ktw pr s(rw)[ ZY?]

- 011 'z-w'n cwpr ryz-kry p't'xš'w'nw MN 'dw nyn'ky  
012 'xšnystr o rwthc m'tw (pryt'tcnw) 'ptry m'nkwk prwyz-ny  
013 [p](r) βγ'nykw prwrz ptšty xwr pr mγwnw xwrsncykw  
014 ('βc)mpδy ZY 'βr'z-nt'kw pwwm'xw pr mγwnw xwrm'z-tyc  
015 kwt'r 'yδ'kty cwpr xwβw ZY 'mnw xypδ'wntw βγ('y ZY)  
016 'mnw fryšty 'xš'ynty βrxscykw ''(γ)[δy ZY y'n ](δ)[βryny?]  
017 mz-yγ srδ'nk γwβt'kw pcywβt'kw Z(Y)[ ''](f)[ryty wwnw'kw]  
018 p'r'γz kwz-py n'm βγ'nw 'nγwnw βγ'y mr 'ry'm'(n)  
019 pwxr xwrsncykw mwz-'kw pr xwβw 'yšwy frm'nw δstwβ(r)y  
020 [o] o p'šc'nw 'βt'δ'nw 'xš'nkt' mxyst'kw ptβyw-cnw  
021 xwštrtw ršty-wx rš-δβrytw bsp'tytw δp'yrtw z-βγγ  
022 nw'kstw xwct' p'š'ntytw βr'z-tytw δrwšškt' δmnykw  
023 xw'ryštw sytm'n 'δw wkrw 'ncmn 'pts'kw (ky)[ βγ'y]  
024 xypδ'wnty ptycy pr mz-yγ 'xšnk'wy (Z)[Y pr mz-yγ? 'sp's]  
025 'skwntw pmβry ptk'r' pnty wyn 'yrz-nw wβ('n)[tk 'skwn]  
025' << mwz-'kw 'βr'z-nty RBfm s'r >>  
026 MNxypδ šyr'γδy šyr-δryty cpδ' 'pw 'sp's  
027 pr 'sp's n'-pr'y'tw wyny (nm'n)[ ZY]  
028 cyn'wtw RYFWmykw frm'n-pt[γwšy kštry]  
029 βnty šxry'r z-'δ'kw 'βt'δ'nw Z(Y)[ 'δw]  
030 wkrw 'ncmn z-'m o [ o 'ptškw'nw MN]  
031 δwry 'βr'z-nt'kw RBfmy krz 'wšwy βγγ'ky pyymm 'y[rkš]  
032 sry kw z-'y prw pstw nm'cw βrym o c'nkw kw 'δw'  
033 rwxš'nt' wrt'nts'r 'xw nm'cβrty pwt'ny 'z-prt rwβy  
034 wyspw 'krt'ny kmpwny pr mz-yxw z-'rcnwky' [krmšwxwnw]  
035 γw'nw'cy 'ptškwym rt rxynym βγ o prβrtδs[tw 'sp'tz-'-]  
036 n'wky pr dymnync pδk' pr z-'m'wy (ZY) pr (')[xšnk'wy]

- 037 šyr z-'m ptwysty o rtkδ' m'xw βγ'nw (')[nywnw pwt'yšty]
- 038 'pš'γrywy δrmykw xwt'w ZY 'mnw xypδ'wntw trts'r (x)[cy]
- 039 prpm fmxwnty cyn'ncknδ 'wt'ky 'δw wkrw ''fryty
- 040 'ncmn 'pts'kw 'pryw cyntr kyr'nw 'δw 'nc(mn δyn')[rt'wspy']
- 041 pr ptβyw ZY 'xšnk'wy ZY βykkyr'nw 'δw [šyrw 'spt'kw]
- 042 'yrz-nw pmxwnpδy βγ'y 'xš'w'nd'r šyrδryty [x'γ'n ZY]
- 043 tkryk'n xwncwytw o tkryk'n tykyt [ZY 'wt'keyki]
- 044 xwt'wtw pryw'ntw nγwš'ktw ZY nγwš'k'štw ZY p(')[rykt]
- 045 pr 'δw wkrw CWRH z-wkw 'pw pry'y pwt'ny m'n
- 046 wγš'nty pw tns 'pw nwryz-y pr δynmync ('r)kw (pr)[ ]
- 047 sytky' cyntr kyr'nw šyrz-'wy šyry ptyc[ ]
- 048 m'yδ nm' 'st'nt c'nk w βγ'y xypδ'wntw [RBkw? ]
- 049 pm 'yrz-n'wy o ZY m'xw kšt'rt' βn(tytw β.)[ ]
- 050 MN βγ' y'n ZY ''γδy xwz-'m'nty 'mnw x(γδ)[δwkcycw?]
- 051 prywyδ cm'nprpm šyr wyšym o rtms m'xw wšp'n βntyt[w]
- 052 pr βγ'y z-'wr pry'tr βγ'nw 'nywnw βγ'y xypδ'wn(t)[y]
- 053 δwry šyry ptβr'wy ZY prtry' kyr'nw mδy ['skwyny 'δw]
- 054 wkrw 'ncmn 'pts'ky 'pryw nwywyδ z-wmy 'p[w nwryz-y]
- 055 šyr'kw ZY wrcy' xwpt 'skwym βγ o '(k)δry β(γ)[ 'nw 'nywnw]
- 056 βγ'y xypδ'wnty RBpm s'r cw pr cz (p.)[ w'xš]
- 057 rxnym βγ o xwty 'yw pty'p cw 'ptškw'nw 'mnw wβ(')[tw]
- 058 x't wyspw r'm'ntw ''ryxšy 'yc't'wy 'ptškw'nw rxnym(s)[k?]
- 059 β'wtk x't s't wnxrš βrtpδ wβy prm'nw [βš'm βγ]
- 060 o o 'kδry s't 'βcmpδy cyntr δ'my myδ'ny (p)[ymmycyk]
- 061 nwy myδ'kty 'nδysnw δyβz-y ZY pδk' 'wst'ty 's(t)[y ZY]
- 062 nwy myδ škr'm'nty ZY šyr'kw ''fryw'ncyk(w)[ ](δ)[ pyšty]
- 063 βwt 'skw't o w'nk w s'cy pδk' wm't m'xw š(n'k)[tw? ]

- 064 ɸntytw r'm'nty nywš'kyn ɸrwxškt' pr p'z xyz-'(n)[ ]
- 065 ɸɣ'y xypɸ'wntw RBfm s'r swɸ'y'tymnw o pr w(šp'n šyr)
- 066 mwrz-ky 'z-n' xypɸ'wnty ryty p'ɸy 'wštky (p)[ ]
- 067 ɣwɸty' ''fryw'ncykw 'ptwyɸyt'yymnw o yw'r (.)[ ]
- 068 z-wmy z-mnw n'-ptɸr'wy kyr'nw ɸɸt(yk)w xrt [ ɸɣ'y]
- 069 xypɸ'wntw 'pw prm'nw nɸ'nty L' swɸty ('y)[mnw? ]
- 070 o o 'kɸry pr mz-yɣ ptɸyš nwyymɸ-c'ny c'ɸ ks'[n]
- 071 ''pryw'ncykw rxynym 'skwn o o sɸy sry pw(šnw nw)[y]
- 072 myɸ tys'm'nty pmxwnty ZY 'my'kcykw wɸ'tw (ZY)[ ]
- 073 šyry ptycy MN 'pw ''mɸ pw 'nɣwnw 'xš[ywny ]
- 074 'z-rw' ɸɣ'nw 'xšyɸ-y MN 'ɸry ''stny (p)[nc mz-yxy'k]
- 075 'ɸw rwxš'nt' wrt'nt wxwšw 'xšywny(t)[ ɸɣ'yšty ZY]
- 076 'z-'wn'y xwɸw 'yšwy ZY mgwn z-wmncykw pw(t)yšty (Z)[Y]
- 077 MN y'kwɸ fryšty o mywnw ɸyn p'šytw pryšt'kt(y)[ prm]
- 078 ZY w'xšyky mrt's'r ZY fm ZY frmwnt'ky'(h)[ nwy wyšy]
- 079 ZY 'xws'nty' o nwy wr' ZY ɸrtry' nwy ɸy[nmync yɣty'k]
- 080 ZY 'xš'w'nmync ptš'ɸty' nwy rw'nmync '(s)[pwmy'k]
- 081 ZY t'mp'rmync ptš'ɸty' ptšpr't pr (m)[ɣwnw ɸyn]
- 082 cwpr yxwst'y ɸɣ'nw 'nɣwnw ɸɣ'y xyp(ɸ)['wnty 'ɸw]
- 083 wkrw CWRH cwpr o w'nkw ZY fm 'ɸr'z-'nty (ɸ)[ɣ'nyk]
- 084 m'n wyš'nty pr rw'z-y 'skw't o pr ɸ(ɣ)['y xypɸ'wnty]
- 085 fm-pɸ'ky' ɸynw sry ptryz-'t ''ympn 'w(x)[w'y't ptkwn]
- 086 pɸk' wɸy't pɸy't nyst ZY n'-wyn'ncyk(w)[ wɸ'tw ]
- 087 'sky c'ɸr wysprɸ wy'ky ɸynmync pts'kw [ ]
- 088 šy'tr o srɸ pmxwntystr ZY ɸz-wnystr [wɸ'tw ZY pr]
- 089 ɸɣ'nw 'nɣwnw ɸɣ'y xypɸ'wntw ɸstɸr'ky[' ZY? frm-]
- 090 pɸ'ky' ɸyny fmy ryz ZY xwɸw 'yšwy f(r)[m'n ]

- 091 kwn't c'nkw 'skycykw 'xšywn'ktw βγ'yš[t ]
- 092 m'xw βnt'ktw pr wyspw z-mnw ''γδy Z(Y)[ y'n βxš'nt?]
- 093 cw šyr'kw 'šm'r' ky pr mγwnw δyny Z(Y)[ xwm'ztyc]
- 094 kwt'r 'yδ'kty cwpr 'sty x't 'spty'kw pt(y)['m'nt ]
- 095 βwxscykw rw'ntw βγ'y xypδ'wnty δstw[βr'ky' ZY frmpδ'ky']
- 096 δs' βwγ xwyck'wy βyr'ntw o ms βyk ky[r'nw 'δw šyrw]
- 097 'spty 'yrz-nw βγ'yšty δstβry βγ'y 'wyγw[r x'γ'n ]
- 098 xwty prfm 'M''fryty txm'ncy 'pryw (100)[ z'r srδy?]
- 099 pr wrn'ky' pr wγšy 'xws'nty' βrz-y (z)[-mnw? ]
- 100 βγ'yštw fryštytw p'šy γ'ry myn'nt p(.)[ ]
- 101 wz-t' n'-xwpt w'xš mγwn δyny pr (.)[ ]
- 102 βyks'r δwr ptwysty wβ'tw 0 pr βγ'y xy[pδ'wnty z-'wr]
- 103 'yw mγwn 'spwrk'ry twš'mny 'wδ 'βy-p(x)[tky wβ'tw?]
- 104 tym cw šyr'kw ''fryw'ncykw 'sty x't ky m[xw βntyty]
- 105 m'n L' βy'p o z-β'k L' ptyw'b x't [wxwšw 'xšywnyt]
- 106 βγ'yšty 'nz-'wn'y xwβw 'yšwy xwty pt[wysty wβ'tw? βγ'y]
- 107 xypδ'wntw ZY m'xw βntytw sγtm'nw 'yw (m)[γwnw βyrtw-]
- 108 y'n ZY βyrtw-'γδy wβym 'wpwynty myδ [wβ'tw ''myn]
- 109 o o nyš nwymyδc'ny ''rxyš šw' '(s)[kwnw cxyδy pyδ'r?]
- 110 mwnw c'β ks'n 'stmp x'ns n'-βsp't[ ]
- 111 ''pryw'ncykw 'ptškw'nw rxyntδ'rym prywyδ [p't trts'r]
- 112 L' tysym βγ o γw'n n' wβ'tw o [o tδy βγ'nw 'nγwnw βγ'y]
- 113 xypδ'wnty nβ'ntw 'skwynytw 'Hγw-trtw[ p'šc'nw?]
- 114 'βtδ'nw o r'ymst βrwγ o sry' xwrxš[yδ ]
- 115 mwrw' š'δ 'ry'm'n o 'wδp'r xwšt'(r)[t 'δw wkrw]
- 116 'ncmn frm s'r z-'m nm'c krmšwxwnw[ γw'nw'cy 'ptškwym]
- 117 ZY z-'m 'ptwyδym βγ o o mδy (m')[xw kšt'rt' βntyty]

- 118 'pryw 'skwynytw 'HYw-trtw rwsn pw(x)[r ZY wykr'-?]  
 119 syšn wyspwxr o pyrwz wyspwxr p'ryk(t)[ dyn'brt ZY]  
 120 z-'m's'yktw 'yw'rx'ny sytm'n 'δw 'nc(m)[n 'pts'k]  
 121 z-'m nm'c krmšwxwnw γw'nw'cy 'ptškwynt[k 'skwnw ZY?]  
 122 z-'m 'ptwyδ'ntk βγ o o tδy βyk(k)[yr'nw ]  
 123 'lp twtwx 'wyk' pry-rw'ntw nywš'ktw (n)[γwš'k'štw nwy]  
 124 nywš'kt s'r γrβ 'ps'ty krmšwxwnw (γ)[w'nw'cy 'ptškwym]  
 125 o o mδy ms βγ'y xypδ'wnty z-'(t)[ytw ZY δwytrt]  
 126 'wtmyš tykyn sry sytm'n xwncwytw[ ZY tykyt ZY p'rykt]  
 127 xwt'wt fry-rw'n nywš'k nywš'kt(w)[ ZY δnymync?]  
 128 z-'kt δwry RBfny γrβ nm'c k[rmšwxwnw γw'nw'cy]  
 129 'ptškwyntk 'skwn βγ o [o ]  
 130 np'xšty '(p)[tškw'nw pwsty cxš'pt]  
 131 m'xw 20+3[+X syty' z-mny']  
 132 't βγ'nw 'ngwnw s'r'st (p)['r'γz mr 'ry'm'n pwxr?]  
 133 RBk' mwz-'kw 'br'z-nt'kw RBfr(n)[ s'r MN]  
 134 kš[t'ry βnty šxry'r z-'δ'kw 'βt'δ'n?]  
 135 (z)[- 'm 'ptškw'nh? ]

## 和訳

§ 1a 神々にも似た(お方に), 神々から[完全に栄光を受け取ったお方に, 御本人自らも]恩恵を分け与え下さる神として姿を現わす(お方). 仏[陀たちの代理であり, 5つの](光の)要素の象徴, 3柱の王権持てる神々の[意思]を完成させるお方. 明るい[教会の栄光=ワフマン](の力)により勝利し, 勇敢で, 神聖になった(お方). 御自身も, 汚れない神聖な誉め言葉によって余すところなく賞賛された(お方). 何千もの人々を夜明けのない苦しみから救うお方. 何万もの人々を終わりのない至福へと導くお方. 近くでは無数の人々にすばら

しい恩恵を[与えるお方]、遠くでは永遠に不滅の[生命へと](導くお方)、<sup>10</sup>さらには私ども一万番目の最も取るに足りないしもべの身と生命の上に、自由自在の主人でありまた君主(であるお方)。(我々の)両(目の)瞳よりもすばらしい(お方)。慈悲深い母、慈愛に富む父にも似て、神聖な糧食と支えにより(我々を)養うお方。全東方世界の太陽、すべての原人に由来する<sup>15</sup>一族の人々の上に輝く満月、王、我々の御主人様、神であり我々への(神からの)使い、支配する者、誉められるべき者、希望を(かなえ)[恩恵を与えるお方]、偉大なリーダー、賞賛され、[祝福され、勝利し、]すばらしくまた生命力あふれた(その)名前、(すなわち)神々にも似た主人、マール・アリヤーマーン・ブフル、東方の慕闇、王であるイエスの命令によって権威を執行するお方へ。

§ 1b <sup>20</sup>尊敬に値する弘多誕、優れたマヒスタク、尊敬すべき長老僧侶、正しい救済(の道)を与える(者たち)、慎ましやかな書記たち、すばらしい\*\*\*たち、好ましい賛美歌歌手たち、明るく照らされた(男の)弟子たち、法に従う尼僧たち、2種類の秩序ある教団全体、主である御主人様の面前で大いに敬意を払いました[大いにお仕えしている](者たち)、<sup>25</sup>栄光あるお姿を近くから見るにふさわしい(者たちへ)。

<sup>25</sup>《慕闇の輝く偉大な栄光へ》

§ 2 <sup>26</sup>御主人様の幸せを願う者、(御主人様に)よく目をかけられた者、全くお仕えもせず(また)お仕えもできない者、お目見えすることを[願い]楽しみにしている者、一万番目の召[使、最も取るに足りない]しもべ、弘多誕シャフルヤール・ザーダグ及び[2]<sup>30</sup>種類の教団から慎み深く[申しあげる言葉]。

§ 3 <sup>31</sup>輝く偉大な栄光に、世にも珍しい神聖な神格に遠くから、まず最初に、[脇の下に手を挟み]頭を地につけて、私たちは、ちょうど2つの明るい乗り物に敬意が捧げられているように、敬意を捧げます。仏陀の清い口で、全ての罪と過ちを(告白し、あなたの)大きなお慈悲で[容赦し]<sup>35</sup>罪の許しを(与えて下さるよう)お願い申し上げます。手を(前に)交差し、膝を[曲げて]、教会の法に則って、謹んで[丁寧に]、とても慎み深く(そのお願い)を送り奉りま

す。

§ 4 <sup>37</sup>もし我々の神々にも[似た、仏陀たちの]代理であり法王であり、また我々の御主人様がそちら、(すなわち)幸ある高昌地方の2種類の祝福された<sup>40</sup>秩序ある教団とともに、幸運であられるならば、(すなわち)内側(の宗教面)で2つの教団からなる[僧侶たち]が尊敬され尊重されているならば)、そしてまた外側(の政治面)で2[種類のすばらしいこと?]にふさわしい、幸多い主であり支配者、よく評価された[可汗及び]崇高な王妃たち、崇高な王子たち[他の国々の?]王たち、(自分の)魂を愛する聴者たち女の聴者たち[や他のものたちが]、(精神と肉体の)<sup>45</sup>2種類の人格において健康で、痛みがなく、その仏陀の心が喜び、心の痛みがなく倦怠感もなく、宗教の[仕事]に対して[···]内側で評判がよく、良い方に向かっていて[···]ちょうど御主人様の[偉大な?]栄光や貴さと同じようであられるならば、私たち最も取るに足りないしもべたちは[主が?]<sup>50</sup>我々この[世の者のために]神から恩恵と希望(が達成されること)を願って下さること、そのことで心の底から大いに嬉しく思います。

§ 5 <sup>51</sup>そしてまた私たち取るに足りないしもべたちは神のお力で、特に遠くにあられる神々に似た主である御主人様の良い思い出および改善(に向けての教え)により、ここに[いる2]種類の秩序ある教団とともに、今の時[倦むこともなく]、<sup>55</sup>よく、平穩で、すばらしくあります。

§ 6 <sup>55</sup>今や神々に似た主である御主人様の偉大な栄光にどれほどか[多くの言葉を?] (送り)奉ります。ほんのひとかけらでも何でも、申し上げる言葉が我々に[ありましたら]、すべてをいつも、キャラバンで健康を尋ねる手紙として(送り)奉ります。(それが)届きましたら、すべての(そちらの)ニュースが(こちらの私たちに)伝わるお言葉を[お送り下さい?]

§ 7a <sup>60</sup>さて全世界の中で、生き物の中で[以前から?]新しい日の例、定めや決まりが確立されています。新しい日に行くべきことやすばらしい賛歌が[今まさに?]行われようとしています。私たち取るに足りない[···]しもべたち、常に恭順な弟子たちは顔をつけて這いながら神々に似た<sup>65</sup>主である御主人様

の偉大な栄光の方へ急ぐべきことが、(そして)取るに足らない、とても些細な知識しかない(私たちは)御主人様の面前に立ち尽くし、[・・・]誉め言葉や賛歌を捧げるべきことがなすべき法でありました。しかし[今この?]時、(この)時間、知らないうちに時間がまた過ぎてしまい[・・・]御主人様の命令がなくて、おそばに急ぐことが[ありませんでした]。

§ 7b <sup>70</sup>さて大いなる敬意をもってどれほどか些細な[・・・]賛歌を(送り)奉ります。年頭のプシュヌ(月の)[新しい]日が来ることが幸多く慶び多く[また・・・]さい先良くありますように。比類のないまた並ぶもののない[王・・・]神々の王ズルワンから、3つの不変のもの[5つの偉大なものから]、<sup>75</sup>2つの(光輝く)明るい乗り物[から]、6柱の王権もてる[神々から]、生命を与える王イエス、さらには各時代の仏陀たちから、また天の使いヤコブから、教会の全守護者たち、天使たち、守護霊たちから、新しい栄光と幸運が、[新しい喜び]と満足が、新しい利益と増大が、宗教の新しい[拡大]と<sup>80</sup>王国の平安が、新しい魂の[完成が]、そして身体の平安が[全教会]の上に、とりわけ神々に似た主である御主[人様の2]種類的人格の上に、備えられますように。かくして(主の)栄光が輝き、(主の)[神神しい]心が喜び歓喜してありますように。主[である御主人様の]<sup>85</sup>幸運によって教会がその頭を掲げ、虚偽を[打ち碎きますように。誤った]法が減び消え去り、なくなり見えなくなり[ますように。・・・]上でも下でも、どこ場所でも教会の秩序が[・・・]で]より優れて(ありますように)。

§ 7c <sup>88</sup>(新しい)年がより幸多く、より栄多く[ありますように。・・・]神々に似た主である御主人様の権[威と幸]<sup>90</sup>運により[教会が?][教会の栄光]の意思と王イエスの命[令を]行いますように。その一方で(我々の)上にいる王権もてる神々が[・・・]我々しもべたちのためにどんな時にも希望をかなえ恩恵を与えて下さり、(また)どんな良い考えが全教会[及び原人の]に由来する者たちのうえにあっても、(それらを)完成して[下さる]ように。<sup>95</sup>救済されるはずの魂が主である御主人様の権[威と・・・により]10の救済と解脱を見つ

けますように。

§ 7d <sup>96</sup>また外側では[2種の王冠に?]完全にふさわしい、神々の權威を(地上で)執行するもの、主であるウイグル[可汗]ご自身が、祝福された一族とともに、栄光にみちて[ありますように]。(彼はまた)百[年も千年も]信仰をもち、喜び満足して、長い[間生きますように]。<sup>100</sup>神々と天使たちが守護者であり擁護者でありますように。[・・・]害と良くない言葉が全教会で[・・・]の外、遠くへ撃退されますように。主である[御主人様のお力により?]完成、愛、そして分裂のないことが完全に[達成されますように]。さらに我[々しもべたちの]<sup>105</sup>心では把握できない、舌では語れないような、どんなすばらしい賛歌があったとしても[それらが6柱の王権持てる]神々、生命を与える王イエス自身[によって](あなた様に)捧[げられますように]。主である]御主人様と我々しもべたちがみんな[同様に]恩恵を見つけた者、望みがかなえられた者になりますように。そのようにありますように。そのように[ありますように。]

§ 8 <sup>109</sup>さて新しい日のキャラヴァンが発しました。[それで]<sup>110</sup>このどれほどか些細で、耳障りで、ごちなく、慎みのない[・・・]賛歌、お願いの言葉を(送り)奉りました。なぜなら我々が[そちらに]行くことはありませんので。(またそのことで我々に)罪がありませんように。

§ 9a <sup>112</sup>[そちらでは、神々に似た主、]御主人様のおそばにいらっしゃる同胞たち[や尼僧たち]、弘多誕ラーイマスト・ファロツホを筆頭に、フワルシェード・[・・・さらに・・・]・<sup>115</sup>ムルワー、シャード・アルヤーマーン、(さらに)そちらに(いらっしゃる)長老僧侶[および2種類の]教団の栄光に慎み深い礼拝、御容赦、[免罪をお願い申し上げ]、慎み深く(そのお願いを)送ります、主よ。

§ 9b <sup>117</sup>こちらでは我[々、取るに足らないしもべたち]とともにいる同胞たち、ローシャン・プフル[・・・ウイグラー]シシユヌ・ウイスプフル、ペーローズ・ウイスプフル、他の[僧侶たち及び]<sup>120</sup>\*\*\*たち、(これらの)すべての2種類の[秩序ある]教団は、慎み深い礼拝、御容赦と免罪をお願い申し上



010 p't'xš'wnw 'xš'nky p'šc'nw (..) [ (fr)nxwntpdy-y  
 011 'škrtpδ'nky o s'rstw xwβw xypδ'wnt mz-yxw δymync  
 012 srδ'nkw 'xšwny ''fryty wwnw'kw p'r'γz ZY z-βγy n'm  
 013 βγ'y mr 'ry'm'nw pwxr xwrsncykw mwz-'kw pr xwβw  
 014 'yšwy-y δstwβry o ZY p'šc'nw 'βt'δ'nw o xwštrt  
 015 ZY kštrt' βr'z-tytw δrwxškt' ky βγ'y xypδ'wnty  
 016 ptycy pr 'sp's 'skwntk ('s)[kwnw ZY? ](pt)k'r' fmβry  
 017 ptrwxš MN pnty wyn 'yrz-nw wβ'ntk 'skwn o o  
 018 MNxypδ n'-'sp'xštw ZY kw  
 019 'sp's o n'-pr'γtw o 'sp's nm'nw  
 020 wyny cyn'wtw r'm'nty šyr-'γδ'kw  
 021 ''y-kwn (βz)-ryt'kw kštry nw-  
 022 'ptš(m')[r ](f)[r](m)['](n)-'ptywšy  
 023 δymyncw m'sy βnty m'ny-y  
 024 wxmn 'βt'δ'nw ZY 'ncmn z-'m  
 025 'ptškw'n o o ZY wny mz-yxw βγy'ky pwt'ny-y  
 026 'βr'z-'nt'kw frny ZY rwxšny 'nt'cy o pym'm δst-  
 027 'nc'l w'βyδ z-'m pstw srw (kw z-)'y frm nm'cβrym  
 028 c'nw rwxšnt' βγ'yšts'r nm'(cβrty 'z-prt pwt'ny  
 029 rwβy pr wyspw rw'nmyncw kmpwny ryz ZY nwryz-y MN  
 030 tny t'mp'r ZY βz-ykw nyz-β'nyty ptymy γw'n ZY  
 031 kmpwny βwtk 'skwn o prwyδ prm'nty' ZY z-'rcnwky'  
 032 kmšwxwnw γw'nw'cy 'ptškwym 'skwn o rtkδ' βγ-y  
 033 rxnym pr mz-yxw 'ptškw'(k pr γ)r'n p'š MN  
 034 kštwrwny 'ptxštc'ny prβrδstw šyr z-'m 'ptwyδym 'skwn  
 035 pr βymync 'pw 'mp'r 'βt'nty fryt'tw rtkδ' šw  
 036 βγ'nw 'nγwnw βγ'y xypδ'wntw pr frm δw' rwxšny

- 037 'nt'cy 'pryw cyntr ßykw 'pts'ky 'pryw šyr'kw wrcy'
- 038 'sty y'nmyncw m'xw 'xws'nty 'pw nwryz-y frmfry ptk'r
- 039 CWRH 'ptywsty 'pw twßsn(wkw ....y) ßrtymprw t'mp'r
- 040 'pw pry'y wðrt'kw xntw pymmcykw pmxwntytw 'wst'ty
- 041 ðymmyncw šyr'kw nwm pðkh 'wst'ty xcy m'xw kštr'
- 042 ßntytw xwty wyspw m'xy swðytyw'nw m'xc'ny 'škr
- 043 'ptwyðytyw'nw o ßy'y xypð'wnty frms'r šn'kw kðrycykw 'wxrš
- 044 ny's xwty ßrtpð wßy f(rm'n) [fry](š?) ßy o ßy'n
- 045 'nywn ßy'y xypð'wnty mz-yγ frn s'r γw'n-kry L'
- 046 wßym ßy o o sry' 'z-w ßnty m'ny wxmn
- 047 'ßt'ð'nw cxš'pt m'xw-c'ny 'škr pwtwy-ð'm 'skwn
- 048 ctß'r 'fwryšn xwry t'n kwn' 20 ywk 'ðry 100
- 049 p'šykw prwyr o xwšw š'pwxrk'n npykw ptyßs o o
- 050 tysny nyz-yny s'r r'št'w-c'ry (k)[wn'] (o) o ßnty yz-t'n
- 051 šxry'r ðynypmcw pwym'ny xwry t'n kð'rtw 40 ywk
- 052 'ðry 100 p'šykw prwyrw xrwx'n npykw ptyßs o o ßnty
- 053 rwšn pyrww š'x'n pwšnw 'yw sýticykw xw'nw swyðy'w
- 054 'ðw pwym'n t'n kwn' 40 ywk 'ðry 100 p'šykw rð'nk
- 055 s'ny npykw ptyßs o o ßnty r'y(mst) yz-ð š'x'n
- 056 k'xy z-xky pnc p'šykw xwry 60 ywk 'ðry 100 p'šyk
- 057 'z mrm'ny npykw ptyßs o o ßnty š'ð ßrwy š'x'n
- 058 k'xy z-xky ðs' p'šykw xwry t'n kwn' 60 ywk
- 059 'ðry 100 p'šykw prwyr o 'z-w'nty (m)'rðny 'wnklywn
- 060 npykw ptyßs o o pwty xypð'wntw frn s'r mrc-ßnt'm
- 061 γw'nkry L' wßym o cxš'pt m'xc'ny 'škrw γrß ß'wn'ky'
- 062 pr nwm pðkh xwpt mγwnw L' 'krty o 'sk'tr kmpy
- 063 n'pr'šty 'krty x't o ßy'n 'nywn ßy'y xypð'wnty

- 064 'z-prtcykw βγ'y krmšwxwnw γ(w'nw'cy 'p)tškwym 'skwn  
 065 βγ o 'ptškw'n pwsty xwpt mywnw pr z-'m'wy L'  
 066 'krty x'tw o βγ'y xypδ'wnty RBk' frn s'r mrc-βnt'm  
 067 γw'n-kry L' wβym o tδy βγ'y xypδ'wnty nβ'nt  
 068 'skwnytw 'βt'δ'nw xwštrtw kštrt' sytm'n 'δw wkrw  
 069 ''fryty 'ncmn frny z-'m nm'c krmšwxwnw γw'nw'cy 'ftškwym  
 070 βγ o mδy ms twδ kδcykw pm w'xšykw o βykyr'nw  
 071 fry-rw'n nγwš'kw nγwš'k'štw p'ryktw n'mδ'rt  
 072 βγ'y xypδ'wntw frn s'r z-'m nm'cβr'ntk krmšwxwnw  
 073 γw'nw'cy 'ptškwyntk βγ o np'xšty pwsty 'ptškw'n  
 074 pwšnw m'xw wxwšw syty' m'xw  
 075 z-mnw'y' o  
 076 't βγ'n 'nγwn s'rstw xypδ'wntw βγ'y mr 'ry'm'n  
 077 pwxr xwrsncykw mwz-'kw pr xwt'w 'yšwy firm'n  
 078 δstwβry o o βnty m'ny wxmn 'βt'δ'n  
 079 z-'m 'ptškw'n o o

和訳

§ 1a 神々に似た仏陀たちの後継者，御自身も恩恵を分け与える仏陀として現われる(お方)．3柱の王権持てる神々の意思を完全に成就するお方．(彼らの力によって?)勝利した(お方)．主であり，偉大な栄光で輝くリーダー．3[・・・]の敬意にふさわしい(お方)．<sup>5</sup>すべての資質において有名で，良き心を持ち，慈悲深い母，慈愛に富む父のごとく神のすべての子供たちを養うお方．とりわけ我々最も取るに足らないしもべたちにすばらしい教訓と教えを与え，すべての方面での喜びと幸せでもって(=喜びと幸せを与えながら)教え，諭すお方．かくして(我々の)身と生命を支配する自由自在の主であり<sup>10</sup>また君主であり，優れていて尊敬に値する[・・・]幸多く，不幸を追い払う(お方)．すば

らしい王であり、御主人様、偉大な教会のリーダー、王者。祝福され勝利に満ち、みごとで立派な名前の(お方)。主であるマール・アリヤーマーン・プフル、東方の慕闇、王であるイエスの(命令により)権威を執行するお方へ。

§ 1b <sup>14</sup>そして尊敬に値する弘多誕、主である御主人様の面前でお仕えし、(その) 光栄ある輝かしいお姿を近くから見るにふさわしい年長のまた年若い(慕闇に) 明るく照らされた弟子たちへ。

§ 2 <sup>18</sup>御主人様の(全く) お仕えもせず、またお仕えすることができていない(者)。お仕えすることを願いお<sup>20</sup>目にかかることを期待している(者)。いつも(あなたの)幸福を願う者であり、醜い顔をした、最も取るに足らぬ数の内にも入らない永遠に(あなたの) 召使(であるこの私)。宗教(=マニ教)の年若いたしもべである弘多誕マーニー・ワフマンと(こちらの)教団から謹んで申し上げる言葉。

§ 3 <sup>25</sup>偉大な神格に、仏陀の輝く栄光に、そして(光輝く)明るい集団へ。最初に合掌し、それほど慎み深く頭を地につけて我々は敬意を捧げます。ちょうど(光輝く)明るい神々に敬意が捧げられてきているように。すべての魂の過ちと、意識的にまた無意識的に、<sup>30</sup>地獄(である)肉体及び邪悪な欲望の故に(犯した)罪と過ちがある(ならば)、清らかな仏陀の口でそのことについて御寛恕とお慈悲、御容赦と免罪をお願い申し上げます。もしさせて頂けるものならば、大いをお願いする心をもって、深く尊敬し、とても謹んで、跪き、手を(前に)交差して、とても慎み深く(敬意を)捧げます、<sup>35</sup>神に対する飽くことのない、燃え盛る愛とともに。

§ 4 <sup>35</sup>もし神々に似た主である御主人様が幸運で、2種類の明るい集団とともに、内(=出家)と外(在家)の秩序(ある集団)とともに、すばらしく、安寧であるならば、恩恵を蒙る我々は満足し、(修行に対する)倦怠感も有りません。

§ 5 <sup>38</sup>(また御主人様の)栄光あるお姿に(わが)身を覆われて、困ったこともなく[・・・](我々の)苦痛に耐えている肉体は<sup>40</sup>痛みなく整っております。

§ 6 <sup>40</sup>以前の幸多い人々が定めた(ように、マニ)教の良き法と決まりで(次のように)定められております。(すなわち)我々最も取るに足りないしもべたちは、本人が毎月、(そちらに)急いで行き、月々のお勤めを捧げるようになっております。主である御主人様の栄光に些細な現在の(我々に関する)ニュースを(送りますので)お受け取り下さい。(そしてそちらの事情が)自ずから明らかになるお言葉を[お送り下さい]、主よ。神々に<sup>45</sup>似た主である御主人様の偉大な栄光に対して、我々は罪を犯していることがありませんように、主よ。

§ 7a <sup>46</sup>冒頭に私、しもべである弘多誕マーニー・ワフマンが戒月のお勤めを捧げます。4つの賛歌を詠唱しました。20の教訓と300の唄を繰り返し(朗唱)しました。すばらしい教典『シャープフラガン』を読みました。<sup>50</sup>入り出る者に慰めの言葉を[かけました]。

<sup>50</sup>(次に)しもべであるヤズダーン・シャフルヤールは『「教会の栄光」(に捧げられた?)過失のない』(というタイトルの賛歌)を詠唱しました。40の教訓と300の唄を繰り返し(朗唱)しました。(また)教道者の教典を読みました。

<sup>52</sup>(次に)しもべであり、シャーハーンのロウシャン・ベーローズはブシュヌ月の一日の(聖餐の)食卓で、ソグド語で2(度)、『過失のない』(というタイトルの賛歌)を詠唱しました。40の教訓と300の唄(を繰り返し朗唱しました)。(また)教典『絵解きの<sup>55</sup>\*\*\*』を読みました。

<sup>55</sup>(次に)しもべであり、シャーハーン・ガーヒーグ・ザハグのラーイマス・ヤザドは、5つの唄を詠唱しました。60の教訓と300の唄(を繰り返し朗唱しました)。(また)教典『マール・マーニーから』を読みました。

<sup>57</sup>(次に)しもべであり、シャーハーン・ガーヒーグ・ザハグのシャード・ファロツホは10の唄を詠唱しました。60の教訓と300の唄を繰り返し朗唱しました。(また)『活ける記録(すなわち)福音書』を読みました。

§ 7b <sup>60</sup>仏陀である御主人様の栄光に対して、我々が死に当たる罪人ではありませんように。(もし)戒律の月のお勤めがたっぷりと十分に、法と決まりに従って、全てがすばらしくなされず、さらに不足があり不十分になされており

ましたら、神々に似た主である御主人様に、(すなわち)清らかな神格に御容赦と免罪をお願い申し上げます、<sup>65</sup>主よ。(この我々が)申し上げる言葉(を綴った)手紙がすべてすばらしく、慎み深く認められていなくても、主である御主人様の偉大な栄光に対して、死に当たる罪人ではありませんように。

§ 8a <sup>67</sup>そちらの主である御主人様のおそばにいらっしゃる弘多誕、年長のまた年若い(弟子たち)全員、(及び)2種類の祝福された教団の栄光に、我々は慎み深い礼拝(を捧げ)、御容赦と免罪をお願い申し上げます、<sup>70</sup>主よ。またこちらでも、Tudh 城の守護霊、外側の(=在家の)自分の魂を愛する男女の聴者や他の名だたる者たちが、主である御主人様の栄光に慎み深い礼拝を捧げ、御容赦と免罪をお願い申し上げておられます、主よ。

§ 8b <sup>73</sup>(この)手紙(すなわち、我々が)申し上げる言葉はプシュヌ月(=正月)の6日、月曜日に書かれた。

§ 9 <sup>76</sup>神々に似たすばらしい御主人様、主であるマール・アリヤーマーン・プフル、東方の慕闇、王であるイエスの命令により権威を執行するお方へ。しもべである弘多誕マーニー・ワフマンが慎み深く申し上げる言葉。

## 手紙 C [81TB 65: 3]

テキスト

001 kw m'xw ['](z)[w'n](y my)wnw xšnky ɣny-βry š'nwɣ δynz-'k 'HjYw m't  
002 xw'r z-'δ'k' xwštr mz-yɣ prms'r o MN wys 'mrz-y ptšm'ry kštr  
003                   βnty š'y wyspwxry ɣrβw ɣrbw m'n ps'ty krmšxwn'w  
004 ɣw'nw'cy pt(škwym) rtkδ' ɣrβ'k xwštr 'nβrty 'xš'wny prprn šyry  
005 pršyδ prm'n βwtk'n x't mn' z-'mnyk kštry βnty ɣr'n xws'nty' xyδ  
006 'xw 'z-w βnty ms nm' n'my npys prm 'yc't 'skwym'n pr pwsty  
007 cw ɣrβw ptškw'nw rxn'n mδy xypδ'wnt mxyst'k prprn 'yc't 'skw'nt  
008 x'm n' pcy('z-'nt) kšy m'sy ptryβnt myδ xšp'y pryw šm'y pk'ry  
009 'ntwxc nyst kšy 'ysy wyt 'xw 'yst' m'xt βntyt ms ''p'y c'my

- 010 pryw wynym'n pnc myδy 'z-w'n 'sty x't 'yw z-'y βtyrm'n 'wδy pry-
- 011 rw'nw <'yncw pylk' tyr'k> xwβw twγmyš 'wrkw xwβw 'lp'tmyš snkwn s'ryy prs  
trx'n pryty
- 012 m'xt γrβty xt'wty n'm L' γrβym'n x't s't s'r ps'ty krmšxwn'w
- 013 pcwyz-t' pym'm 'rxyšy 'yl mnkw 'yn'ly δsty' s't s'r pk'ry pk'ry
- 014 pwsty βš'mty 'ym pcwyz 'xw ky' nβnt cw'c ''sy m't x't twγmyš
- 015 'wrkw xwβwy 'lp'tmyš snkwny pryw 'wštyt' ''sky pryw ''βrt' s't
- 016 'nwt xwm'r šm'xty 'δry prwty cwpr 'sty šyry' wnt' s'ty βys'
- 017 'wyz-t't mδy 'ws' xrtyt <kwlyc x' snkwn> pry-rw'nw nγwš'kt swp'šy twγryl  
'yn'l 'yl
- 018 mnkw 'yn'l ''r 'yn'l s'r ps'ty krmšxwn'w pcwyz-t' mδy-cyk 'wδp'r mδp'r
- 019 šm'xw wyty s't 'yc't 'skw'nt pry-rw'nty x'ny-cykt ms s't 'yc't 'skw'nt
- 020 x'm n' pcy'z-'nt
- 021 'wδy mn' xypδ xypδ'wnt m't r'ymst βrwy xw'r βrwy xwštrt mz-yy
- 022 pms'r MN mn' γrβw γrβw m'n ps'ty pškw'nw pcwyz-t' mn' βnty
- 023 syγ δ'rky prm'n wβ't w'βky pškwyt' syγ δ'r'nt z-rny L' βwtk'n šn'k
- 024 p'δ m's' βnty xwštrty xypδ 'ym <xwtrwy tyr'k> t''šyn z-'δk' š'x'n pms'r ps'ty
- 025 pcwyz-t'
- 026 ''smyš tnkrym p'xw tnkrm 'yl s'pmyš tnkrm ymyš x'twn tnkrym 'wyl'γw
- 027 tnkrym pryty ky m'xty γrβ'y tnkrm 'skw'nt s't s'r krmšxwn'w pcwyz-t'
- 028 'ysyk 'δkw twtwy 'wyk' s'r m'n ps'ty pcwyz-t' s't s'r ''r 'yn'ly
- 029 βš'mt' m'n ps'ty pcwyz-t'

和訳

[伝言A]

§ 1 我々の[生命にも]等しい、優れた、伎倆もてる、立派な、宗教の子供、(精神的)兄弟であった先輩のフアル・ザーダグの偉大な栄光に。

§ 2 <sup>2</sup>(あなたの)しもべ、数の内にも入らない(?), 最も取るに足りないしもべであるシャーフ・ウィスプフルから。

§ 3 <sup>3</sup>何度も多くの挨拶(を送り), 御容赦と免罪をお願い申し上げます。

§ 4 <sup>4</sup>もしも賢い先輩が秩序ある王国で、栄光に満ち、すばらしく、<sup>5</sup>落ち着いて、居心地よくあられるならば、それはまさに私め千番目の、最も取るに足りないしもべには大きな満足であります。しもべである私めもまた、(今)この手紙を書いている(とき)までは健康です。

§ 5 <sup>6</sup>(今この)手紙でどれほどか多くの(謹んで)申し上げる言葉を(送り)奉ります。

§ 6a <sup>7</sup>こちらでは御主人様であるマヒスタクは栄光に満ち、健康であられ、御病気はしておられません。さて、古いも若きも(?) 昼も夜もあなたがたの各々には心配することはありません。今、あなたが来られると言われております。あなた様が来られれば、我々しもべたちもまた理解力(=精神の目)と(肉体の)目の両方で<sup>10</sup>(あなたを)見るでしょう。5日の命があれば、我々は(あなたと我々の間にある?) 一つの土地(=距離)を越えて行くでしょう。

§ 6b <sup>10</sup>そちらの(自分の)魂を愛する(=聴者) 首領の<インチュ・ビルゲ・ティレク>, 首領のトゥグミシユ・オルギユ, アルパトミシユ・サンゲン, サリグ・バルス・タルカン, (さらに) 残りの我々の多くの首領たちで(その)名前を知らない(かたがたがおられる)ならば、その全員に挨拶の言葉(と)御容赦(をお願いする気持ち)をお伝え下さい。

<sup>13</sup>前のキャラヴァンでイル・メング・イナルの手でみなさんの各々に手紙を送りました。お渡し下さい。誰のところで何を受け取る場合にも、首領のトゥグミシユ・<sup>15</sup>オルギユ, アルパトミシユ・サンゲンとともにいて(=彼らが同席するところ?) 下さい。(それらを)受取り、(みんなが)いっしょに持ってきて下さい。すべての支援となぐさめは、あなたがた3人みんなの上にあります(=あなたがた3人が頼りです)。うまく行くようにして(?), みんなから集めて下さい(?).

§ 6c <sup>17</sup>こちらから(そちらに)行った<コルチ家のサンゲン>, (自分の)魂を愛する聴者たち, (すなわち)スパシ・トグリル・イナル, イル・メング・イナル, エル・イナルに挨拶の言葉と御容赦(をお願いする気持ちを)お伝え下さい。

<sup>18</sup>こちらにいる, あちこちであなたがたに会った者たちはみんな健康です。また(自分の)魂を愛する(聴者)の家族の人々もみんな健康で, 病気はしておりません。

[伝言B]

§ 1 <sup>21</sup>そちらの私めの主人であった先輩たち, (すなわち)ラーイマスト・ファロツホ(と)フワル・ファロツホの偉大な栄光に, 私から多くの挨拶の言葉と(御容赦を)お願いする言葉をお伝え下さい。「しもべである私めをよく思い, (彼らから私に)お言葉がありますように。」と申し上げて下さい。(彼らが私を)よく思ってお下されば, (我々の身体の光の要素は)失われないでしょう。(私は)取るに足らない足から(頭まで?彼らの)しもべであり, 先輩たちのものであります。

§ 2 <sup>24</sup><クトウルグ・ティレク>, シャーハーンのダーシン・ザーダグの栄光に, 挨拶の言葉をお伝え下さい。

§ 3 <sup>26</sup>アスミシュ王女, バク王女, イル・サブミシュ王女, イミシュ・カトン王女, オグラグ王女, 残りの我々の多くの王女であられるかたがたに御容赦を(お願いする気持ちを)お伝え下さい。

§ 4 <sup>28</sup>イシツク・エドゥギユ・トトク・オゲに挨拶の言葉と(御容赦をお願いする気持ちを)お伝え下さい。すべてのかたがたに(こちらからそちらに行っている)エル・イナルを送って下さい。彼が挨拶の言葉を伝えてくれるように。

## 補注

『研究』の原稿提出後発表された重要な論文には次の2点がある：

N. Sims-Williams, "From Babylon to China: Astrological and epistolary formulae across two millenia." In: *La Persia e l'Asia centrale da Alessandro al X secolo* (Atti dei Convegni Lincei, 127), Roma, Accademia Nazionale dei Lincei, 1996 [1997], pp. 77-84.

W. Sundermann, "Three fragments of Sogdian letters and documents." In: *ibid.*, pp. 99-111.

後者は、原稿の段階で Sundermann 氏から見せて頂いていたので、『研究』の注釈で言及し、その成果は利用されている。前者はそのタイトルから明らかのように、メソポタミア以来の占星術と手紙の書式(あるいは手紙に利用される文言)の伝統が、中央アジア及び中国にまで伝播していることを指摘した論文である。手紙に関する部分で問題にされているのは、吉田が扱った書式では、「問候(日本語の原文では挨拶)」に当たる部分に見られるいくつかの表現で、具体的には「千回万回(の挨拶)」や差出人が自分自身を「(あなたの) 奴隷」と呼ぶことなどである。興味深いのは、『魏書』の波斯国の条に引用された、神亀中(518～520)に波斯国から北魏に送られた国書の「波斯国王居和多千萬敬拜」が、中世ペルシア語の原文にあった文言を反映するものであることが指摘されていることである。

中国王朝に周辺諸国から送られた国書が史書に引用されている場合、原文の文言が忠実に翻訳され、そこから原文の wording を推定できることがあることは良く知られている。同様の例はソグド語の手紙にも見いだされるが、吉田が『研究』の付録1でソグド語の書式を扱った際にはそのことを指摘できなかったので、この場を借りて指摘しておきたい。問題の手紙は開元7年(719)に安国王の篤薩波提が送った国書で、『冊府元龜』巻999に引用されている。手紙の本文に先立つ冒頭の書式の部分は次の通りである：「臣是從天主領普天下賢聖皇帝下百万重草類奴在遠叉手胡跪礼拜天恩威相如拜諸天」。(なおこの手紙がソグド語の手紙の翻訳であることに注意を喚起し、差出人が自分を卑下する表現

を、実在のソグド語の手紙の表現と比較したのは、蔡鴻生『唐代九姓胡与突厥文化』北京、中華書局、1998、p. 54 が最初である。）

差出人に関わる表現のうち、「臣是・・・下百万重草類奴」は、MN..... RYPW-mykw kštr' βntk 「百万番目の取るに足りないしもべから」に対応するだろう。受取人に関する表現「従天主領普天下賢聖皇帝」のうち「従天主」は、受取人を神ないしは神にも等しいとする最冒頭の文言に対応するのであろう。この表現だけならウイグル語の tāngriḏä (qut bolmiš) にも比較できる。「領普天下」はベゼクリクの手紙 A, B に見える pr srw 'z-w'n ryz-kry ZY p't'xš'wnw 「身体と生命を支配する自由自在の王」が類似する表現である。「賢聖」などはごく普通的美辞である。ベゼクリクの手紙でも「貴い」を意味する p'šc'n 等の形容詞や、技能や才能が優れていることを意味する š'nwx や γnybry といった表現が見られる。中国皇帝宛のソグド語の手紙の実例は知られていないので、手紙に現われた例はないが、「皇帝」は原文では βyp'wr であったであろう。

残りは挨拶の部分で、「在遠」は MN δwr z'yh の翻訳であることは間違いない。「叉手胡跪礼拜」には、prβrtδstw 'sp'tz'nwkw nm'cw βrym のような表現が対応する。このままの表現は在証されていないが、各構成部分はベゼクリクの手紙に実在する。また「天恩」は、受取人を「神」と比較する手紙 A の挨拶部分の表現 krz 'wšwy βyy'ky 「奇跡的に神聖な神格」に比較できるだろう。さらに「威相」は pm に関わる βr'z'nt'kw RBfm 「輝く偉大な栄光」に対応する。「相」という漢字がソグド語の pm に対応するのは、仏教ソグド語でもマニ教ソグド語でも一般に見られることであるが(cf. P. Bryder, *The Chinese transformation of Manichaeism*, Bokförlaget Plus Ultra, 1985, pp. 128-134), このような世俗の文献にもそれが現われることは興味深い。最後に「如拜諸天」にも対応するソグド語の表現がある。最もよく似ているのは「古代書簡」にある 'YKZY ZKyHMw βy'nw Byrt 「ちようと神々に(敬意が)捧げられるように」である。[吉田]

### 第三章 ウイグル語のテキストと和訳

まず最初に、以下に掲げるウイグル語の手紙5通(D, E, F, G, H)のテキスト転写システムと、翻字・転写・翻訳で使われる記号などの説明を与えておく。

#### テキスト転写

##### 機械的翻字 Transliteration

’ β C D K L M N P Q R S Š T W X ǰ ǧ Y Z Z

\* Q = X with a long tail going straight downward (not lower right, when regarded as written vertically) in word-final position.

##### 標準的再建形 Transcription

###### 子音 Consonants

b č d/ɟ g γ/ǰ/ǧ k l/ɽ m n/ŋ p q/ǰ/ǧ/ǧ/ǧ r s/z

š/ṣ̌ t/ḍ v x/x̣ ǰ/ǧ y z/ʒ (Only in a loan word) w ž/ẓ̌

\* γ/ǰ, ŋ, q/ǰ, x̣/ǧ はそれぞれ文字 γ, n, q, x の左側(ウイグル文字を縦書きとみる)に1点ないし2点の補助記号があり, ṣ̌, ẓ̌ はそれぞれ文字 š, ž の右側に1点ないし2点の補助記号が付されていることを示す。ǧ/ǰ/ǧ は語末で尻尾が真下に力強く長く伸びているもの。ɽ はフックのない l を示す。ŋ は使用しない。

###### 母音 Vowels

a ǰ ä 'ä i i o ö q u ü ʉ

\* 原則として機械的翻字をしない本稿では e を使用しないことに注意。

#### 翻字と再建形との対応関係, [] 内は音価

###### 子音 Consonants

β = v C = č [tʃ] D = d, ɟ [t] K = g, k L = l M = m N = n P = b, p

Q = q, ǰ, ǧ, q̣, ǧ̣, x̣, ǰ, ǧ R = r, ɽ [l] S = s, š [z] T = t, ɟ [d] X = γ, q, x

Z = z, ž [s], ẓ̌ (Only in a loan word) W = w

###### 第一音節の母音 Vowels in the first syllable

''- = 'ä-, a- '- = ä-, a- 'Y- = i-, i- 'W- = o-/u-, ɒ-/ʉ- 'WY- = ö-/ü-

KW- = kǰ-/kʉ- YW- = yǰ-/yʉ-

\* a- means a shortend form for the back vowel a-.

\*\* ɒ/ʉ mean shortend forms for the front vowels ö/ü.

###### 第二音節以下の母音 Vowels in the second syllable or after

' = ä, a Y = i, i W = ö/ü, o/u

凡例 Explanation of symbols and conventions employed in this edition

a) Chiefly in the Uighur text テキスト

- bold** Suggested restoration of wholly damaged letters.  
破損して完全に欠けている文字を推定復元したもの。
- italic* Letters partly preserved and restored with certainty.  
残画より確実に復元できる文字。
- (*italic*) Letters not clearly legible or only partly preserved whose traces may also be interpreted differently.  
提出された読みが残画と矛盾しないことを示す。ただし他の読みの可能性を排除しない。
- ////// Conjectured number of letters in a damaged part.  
破損箇所 of 文字の概数。
- [ ] Damaged part whose number of letters cannot be conjectured.  
破損して、文字の概数も不明。
- ]xyz Damaged part of undetermined extent, at the beginning of a line.  
行頭が破損している場合、破損の大きさは不明。
- xyz[ Damaged part of undetermined extent, at the end of a line.  
行末が破損している場合、破損の大きさは不明。
- .... Approximate number of visible but illegible letters.  
残画があるが復元できない箇所の推定文字数。
- ~xyz~ Letters added secondarily right or left of the line, or in the margin.  
行間ないし欄外に付加された文字。
- <xyz> Letters omitted by mistake or as usual, but restored by the editor.  
誤って書き忘れられた文字、あるいは習慣的に書かれない文字。
- {xyz} Visible traces of letters deleted or to be deleted.  
原文から削除されている、あるいは削除されるべき文字。
- {...} Approximate number of deleted letters.  
原文中で抹消されている箇所の推定文字数。
- +
- 
- : ∴
- ~

b) Chiefly in the translation 翻訳

- [ ] Translation of damaged or restored parts.  
破損箇所ないし推定復元した箇所の翻訳。

- ( ) Words not in the text but added to improve the translation, or explanatory remarks by the translator.  
 翻訳を分かり易くするために原文に補った箇所，あるいは  
 翻訳者による説明や言い替え。
- (*italic*) Corresponding expression in the original text.  
 翻訳されている単語や文句の原語を明示するもの。
- ///// Missing, illegible, or incomprehensible parts.  
 原文が破損していたり，読めなかったり，解釈できない箇所。

## 手紙 D [81TB 65: 4]

テキスト

- 01) ]·[
- 02) inčgä ötügümüz·~
- 03) **iraq yirdän yayuq köngülin ädgü oqli** ~
- 04) ] isinü amranu üküš köngül ayitu<sup>(6)</sup>
- 05) ]<sup>(7)</sup> **nätäg** inč+mü siz biz ymä bu bitig ~
- 06) bitiginčä inč äsän ärür biz amfi bitigdä
- 07) nä üküš sav idalim bay arslan qoštr·
- 08) klti nä türlüg sav amfi barča uqtumuz
- 09) siz biz N[ ] **alip(?)** ilt·i·šärim tip tir ärmiš
- 10) siz K•••[ ] ol(*ard*)[ ]•[ ]'YW ilt·i·šür·
- 11) **rürükčä(?)** [ ] bar ädgü küzi-ning yonī kūn[
- 12) ] aŋ äštilür idiz tay-niŋg
- 13) ](*K*)'Z tumanī körünür ančurayu

(6) For this Uighur and the corresponding Sogdian expressions, see Yoshida's note on Letter A, line 124 in the Chinese version, pp. 86-87. However, when it appears in the Uighur letters, Moriyasu gives the general meaning of the expression, not a word-for-word translation.

(7) The part damaged at the beginning of line 5 is too small for one to restore the most expected word *üdur+biz*. Can one restore *-r+biz*? A small chip of what seems to be a short tail of *-z* is still visible.

- 14) ]• nātāg ädgü saqinčingiz-ni barča  
 15) bilimz büküntä inaru bir atly arqış buls<a>r  
 16) nātāg savangiz ärsär antataý kälzün biz ymä  
 17) birälim arqış tavrağ barur üçün bitig  
 18) quruy bolmazun [ ]• qanuda qan-ča ärtip  
 19) anča CW[ ]X'N älgintä aling taqi  
 20) nä türlüg sav bar ärsär bay alsan qoşır  
 v1) irtgäy [ ]• körtgür{ür}üng anin  
 v2) bitig id<v>mz äsän<v>n  
 v3) tägzün

和訳

- 01) //  
 02) 私たちのかすかな言上 (=御手紙).  
 03) [遠い土地より] 近い心で, 善く考える者 (=善友=友人) が  
 04) //////////////// 心を熱くし, 親愛の情を込めて, 謹んでお伺いを致し  
 05) //////////////// あなたは平穩でしょうか. 私たちもこの手紙を  
 06) 書いている時点までは, 無事息災であります. 今(この) 手紙で  
 07) できるだけ多くの言葉を送りましょう. バイ = アルスラン尊長が  
 08) やって来ました. どんな [種類の言葉 (or 用件?) も] 今私どもは全て諒解  
 しました.  
 09) あなた方が「私たちは //////////////// 取って(?) 互いに持ち寄ろう」と言ってい  
 るそうですね.  
 10) あなた方 //////////////// 持ち寄る.  
 11) チュルク (トルコ) [語? の諺? が] ある: 「よい香料の効き目は燃焼 ////////////////  
 12) //////////////// の名前 (or 名声) は聞かれる. 高い山の  
 13) //////////////// の霧は現われる. 」以上のように

- 14) //////////////////////////////////// どんなにか良いあなたのお考えを全て
- 15) 私たちは知りました. 今日より以後, ある評判の良い隊商を見つけたら
- 16) 如何なるあなたのお言葉 (or ご用件?) であれ, そのまま来させて下さい.  
私たちも
- 17) 与えるでしょう (or 支払いましょう?). (今) 隊商が急いで出立するので,  
手紙を
- 18) 空(から)にはしません. //////////////////////////////////// どこからどこへ (or どこにどのように?)  
行こうと (or いようと)
- 19) そのように //////////////////////////////////// の手より (直接に) 受け取りなさい.  
さらに
- 20) どんな [種類の言葉 (or 用件) でも] もしあれば, バイ = アルスラン尊長が  
v1) 持っていくでしょう. //////////////////////////////////// 見せてやりなさい. そのために  
v2) 手紙を私たちは送りました. 無事に  
v3) 届くべし.

## 手紙 E [81TB 65: 5]

テキスト

- 00) [ ]
- 01) <sup>(8)</sup> šaxan ..... [ ]<sup>(9)</sup>
- 02) ] üküš koṅgü/ ötünü täginür+biz mnastar
- 03) xirza tözün ät'özi koṅgüli ädgü+mü yini yinik+mü
- 04) nätäg yrliqar ärki · äsänin ädgün yrliqamışγ
- 05) äšidü täginip ärtiṅgü ögirä sävinü täginür+biz

(8) For this title see T. Moriyasu, *A Study on the History of Uighur Manichaeism. --- Research on Some Manichaeian Materials and Their Historical Background ---*. In: *Memoirs of the Faculty of Letters, Osaka University* 31 / 32, 1991, p. 92, n. 105.

(9) Uighur *mnastar xirza* < Parthian *man ästär hirzä* "Forgive my sin(s)!", cf. P. Zieme, *Manichäisch-türkische Texte*, (BTT 5), Berlin 1975, pp. 23-24, 65-68, 82.

- 06) **nä üküš ötüg** ötüni täginälim · sizing ymä
- 07)                   ] **nä** uyurluy savıngız-lr ärsär
- 08)               ] **bitıngız** klmäyük üçün **kongülümüz**
- 09) **irtä yavız yavlaq** ärti · ämfı bitig bulup
- 10) **kongülümüz** ädgü boltı käkängiz muntay
- 11)               ] **tngrı** možak başan tngrilär barča
- 12)                   ]YNK' taqı nägü tigü krgäk
- 13)               ] klzün šmirıy ĩ-dmang · öčürgü
- 14)                   ] klsär alıp ĩ-dıyay biz · ol
- 15)                   ] sözlädim ärti siz kirtgünmäz
- 16)                   ] **tükäl** bilingiz ärki · nämän
- 17)               ]•M'Z siz manga yılayu mu bitig
- 18)               ] **tapıy** uduy so uz bir sav
- 19)                   ]• bitıngız klti ol sav bulsar
- 20)                   ]•a turup näčük biläyin sizingä
- 21)                   ] äsän **tükäl** ozmıš bar mu ·
- 22)                   ]r ärki siz · qanı bizing
- 23)               ]•-lr-qa tapınmaqımz · munta klip
- 24)                   ] **tapındaçı** yoq · tāk qırı tapınur
- 25)                   ]N bläk ĩ-dsar tiläk älgintä ĩ-dıng
- 26)                   ]N üçün bläk-in ĩ-dmadmz qutluy
- 27)                   ] adašmz ĩt-qa ymä üküš
- 28) **üküš kongül ayıtu** ĩdur+biz anın bitig ĩ-dtmz
- 29)                   ] tngri qoštr-qa üküš kongül ötüni
- 30) **täginür+biz** [    ]t-qa ymä üküš aytu ĩ-dur+mn

和訳

00) //

01) シャーハーン // が

02) // 謹んで言上申し上げます。私の罪を

03) [赦し賜え。貴殿] の御心はよろしいですか。御身体は軽やかですか。

04) [いかがで] いらっしゃいますか。お元気でいらっしゃったことを

05) [お聞き致しまして] 非常にお喜び申し上げております。

06) [できるだけ多くの言上を] 私たちは申し上げます。あなた様の

07) // いかにかに時宜を得たあなたのお言葉であれ

08) // あなたのお手紙が来なかったので、私たちの気持ちは

09) [先ほどまでは悪かっ] た。(しかし) 今、お手紙を見て

10) // [私たちの気持ちは] よくなりました。あなたの悪感情(?) は  
このように

11) // 聖なる慕闇をはじめとするマニ僧たち全ては

12) // . また何か言うべき必要が

13) [あれば] // (を) 来させよ。沙弥を送るな。消すべき

14) // 来れば、私たちが取って送らしましょう。それ

15) // 私は言っておいた。あなたが信用しない

16) // 全てあなたは知っていたのでしょうか。何も

17) // あなたが // していないのは、私に偽って(?) なのか。手紙

18) // 供養像は見事である。一つの用件

19) // あなたのお手紙が来た。その用件を見れば

20) // し続けて(orに滞在して)、どうかして私は知りたい。  
あなたの方へ

21) // 無事に脱け出した者はいますか。

22) // ですか、あなたは。どこに私たちの

23) // たちに奉仕したこと(があるのか?)。こちらに来て

- 24) // // // // // 奉仕する者はいない。ただキリだけが奉仕する  
 25) // // // // // 送り物を送るなら、ティレックの手にて送れ。  
 26) // // // // // のゆえに、その送り物を私たちは送らなかった。クトルグ  
 27) // // // // // 私たちの友人のイトにも謹んで  
 28) [お伺いを] 致します。そのために (この) 手紙を私たちは送りました。  
 29) // // // // // 聖なる尊長に謹んで言上  
 30) [申し上げます。] // // // // // にも私はお伺いします。

### 手紙 F [81TB65: 6]

テキスト

- 01) ] *tāgzün qoštr · qūtinga ·*  
(10)  
 02) *quluñ raymst murwa šaxanč*  
 03) *ötügümüz ·*  
 04) ] *isinü amranu üküš kongül ötünü*  
(11)  
 05) *tāginür+biz yazuqda bošunu krmšuxun qolu tāginür*  
 06) *biz [ ] mnastar xirza · tngri qoštr ymä*  
 07) ] *qočo ulušta turup küntämäk ät'öz*  
(12)  
 08) ] *M/K'L'YW nātäg inč+mü arki · biz*  
 09) ] *(T)YNC tāginür+biz · amtü ötüg*  
 10) ] *nä üküš ötüg ötünü tāginālim*  
 11) ] *LWX ötügümüz ärsär arqış sayu*  
(13)  
 12) ] *· tāgir arki · z-yn'y alyalī i-dtmz ·*  
(14)  
 13) ] *ävirmz YWS'(R) ünmgäy tip saqntmz*

(10) Cf. F.W.K. Müller, *Handschriften-Reste in Estrang., II*, pp. 58, 117.

(11) Cf. BTT 5, pp. 29-30, 81.

(12) Or JM'KL'ŠW.

(13) Sogdian *z-yn'y* "deposit, trust", cf. B. Gharib, *Sogdian Dictionary*, Tehran 1995, p. 471.

(14) Or βWŠ'(R).

- 14) ](g)üčä bolfi (ya)ra(t)sar bir sav
- 15) ]Y kɔŋgülümüz · irtä yaviz ärti sizni
- 16) ]YYWR ärdimz · antay uyurluɣ sav ymä
- 17) ]ZNY-D' ünmädi kɔŋgülümüz · ädgü bolfi
- 18) ]•K ät'öz tutup antay qalip YWNY<sup>(15)</sup>
- 19) ] ol · •[ ] antay sav-qa arqa
- 20) ]M•T'K sizingä tägsär kim
- 21) ]TKWTmäŋ bu savlıɣ barča äsittmz
- 22) ]i-dalim · tisär bir içürgü-kä bir
- 23) ]R uçuz boŋmış-ta alıp i-dyay biz
- v1) ]• qayu aŋgäkimz-ni sözlägäy
- v2) ](K) bolsar sizlär ärsär ymä
- v3) ] · bizingä siz-ning bitigi
- v4) ]••ZWN K••//• biz tip sanga
- v5) ]•• i-dmš mu tip bitigi klti ol
- v6) ]d// ymä bitig i-dtmz · siz uz qy-a<sup>(16)</sup>
- v7) ] biring · bläkimz bir qap 'RP'N qap<sup>(17)</sup>
- v8) ] kičig ky-ä qap ol · ol kişikä
- v9) ] ötünü tägintimz ·
- v10) ] üküš kɔŋgül ötünü täginür+mn<sup>(18)</sup>

和訳

01) // 届くべし，尊長殿へ。

02) 私めラーイマスト = ムルワー = シャーハーンチ

(15) Or YWRY / βWNY / βWRY.

(16) Or ''P'N. I do not think that it is a Mongolian word *arban* "ten".

(17) Or *kišing* "your wife".

(18) Or *tägintmz*.

- 03) の言上 (=手紙).
- 04)////////////////////心を熱くし、親愛の情を込め、謹んで言上
- 05) [申し上げます]. 罪より解放されますよう、(神の)お許しを懇願致します.
- 06)////////////////////私の罪を赦し賜え. 聖なる尊長も
- 07)////////////////////高昌国に滞在して、毎日、御自身
- 08)////////////////////どんなに平和でございましょうか. 私たち
- 09)////////////////////申し上げます, 私たちは. 今, 言上
- 10)////////////////////できるだけ多くの言上を私たちは申し上げます.
- 11)////////////////////私たちの言上があれば、隊商毎に
- 12)////////////////////到着していますか. 預けてあった物を取るため私たちは  
送りました.
- 13)////////////////////回らない////////は生起しないだろうと私たちは考えま  
した.
- 14)////////////////////ようになった. もし準備(?)していれば、一つの言葉  
(or 用件?)
- 15)////////////////////私たちの気持ちは、先ほどまでは悪かった. あなたを
- 16)////////////////////私たちは////////してはいなかった. そのように時宜を得た言葉  
(or 用件?)も
- 17)////////////////////より生起しなかった. 私たちの気持ちは良くなった.
- 18)////////////////////御身体を保ち、そのように留まり、
- 19)////////////////////そのような言葉に対し、支持を
- 20)////////////////////あなたに届けば、誰
- 21)////////////////////するな. これらの言葉(or 諸用件?)を全て私たちは  
聞きました.
- 22)////////////////////私たちは送らましよう」と言うならば、一つの飲ませるべき  
ものに一つ
- 23)////////////////////安くなった時に私たちが買って送るでしょう.

v1)////////////////////何らかの私たちの苦勞を話すでしょう。

v2)////////////////////なれば(or あれば?)，あなたたちであれば(or がいれば?)，  
また

v3)////////////////////私たちにあなたのお手紙

v4)////////////////////しなさい。私たちは////////////////////]とって、お前に

v5)////////////////////送ったのか]とって手紙が来た。その

v6)////////////////////また私たちは手紙を送った。あなたはうまく

v7)////////////////////与えなさい(or 支払いなさい?)。私たちの送り物は、一袋の  
////////袋

v8)////////////////////とても小さい袋である。それを皆さんに(or それを  
あなたの妻?)

v9)////////////////////私たちは言上致しました。

v10)////////////////////私は謹んで言上申し上げます。

## 手紙 G [81TB 65: 7]

### テキスト

01) inčü taš qoštr qutınga qutluγ tigin [

02) inč+mü ärki · biz ymä yılqı kılük birlä [

03) yangıqa baš ögä kántingä tägdzmz · on yangıqa [

04) -qa köčüp bardmz ·

### 和訳

01) インチュ = タシユ尊長殿へ。クトルグ王子////////////////////[あなた様は]

02) 平安でございますか。私たちも家畜群，荷駄獸と共に////////////////////

03) 日に，私たちはバシユ = オゲ(or バルス = オング?)城市に到着しました。

---

(19) Or *brs öng* "tiger-mother".

(20) One can also read *körüp* / *könüp* instead of *köčüp*.

十日に//////////

04)へと遊牧しつつ (or 偵察しながら?), 私たちは出発しました。

## 手紙 H [81TB 65: 8]

テキスト

- 01) ] äsängümüz ögümüz tüzün tngirim trqan  
02) ]• oylan-lar-qa üküš kōngül aytu  
(2 1)  
03) idur biz yztan astar xirz ögümüz tngirim trqan  
04) ](N) mu ol il qutalmiš kälip tngirim-ning  
(2 2) (2 3)  
05) ]maq kälmädi • ”TXWR qantūmz il •  
06) ]•••mang-lar biläk i-du umadimz  
(2 4)  
07) ] bitig i-dümiz

和訳

- 01)//////// 私たちからの[お手紙]。私たちの母であるテュズユン＝  
テングリム＝タルカン  
02) [様に]////////// 御子息たちに謹んでお伺いを  
03) [致します。] [神々よ、(私の) 罪を許し給え!] (or 神々＝選ばれし者たち  
＝マニ僧たちの罪を許されよ!) 私たちの母テングリム＝タルカン  
04)////////// か。イル＝クタルミシュが来て、テングリムの  
05)////////// マクは来なかった。////////// 私たちは満足した。イル

---

(21) Uighur *yztan astar xirza* < Parthian *yazdān āstār hirzā*, cf. BTT 5, pp. 29-30, 66, 90. On the translation see Sundermann apud *ibid.* On the other hand, Yoshida is of the opinion that this expression is homonymous with another recurring combination *m(a)nastar xirza* “Forgive my sins!”, and that *y(a)ztan astar xirza* should be rendered as “O Gods! Forgive (my) sins!”, although grammatical irregularities remain unexplained.

(22) Or XWŠTR(?) = *qoštr*(?).

(23) Or *qorumz*(?).

(24) Or *i-dur+män*.

06)////////(あなたたちには)////////しないでもらいたい。送り物を送る  
ことが私たちは出来なかった。

07)/////////[それゆえに](この)手紙を私たちは送りました。

## 補注

手紙 C について：27 行目に見える 'ysyk 'skw twtwy 'wyk' (= isig ädgü totoq ögä) という人物は、トゥルフアン出土のいわゆる第一棒杭文書、15 行目に現われるイル = オゲシ (el ögäsi) 即ち宰相の位にあったイシック = エドゥギユ = トク = オゲ = エル = カヤ (isig ädgü totoq ögä el qaya) と同じ名称を持っている。

F. W. K. Müller, "Zwei Pfahlinschriften aus den Turfanfunden." (*Abhandlungen der Preussischen Akademie der Wissenschaften, Phil.-hist. Klasse*, 1915-3, 38p., +1 pl.) によって有名となったウイグル語の第一棒杭文書と第三棒杭文書については、2001 年に発表される予定の拙稿 "Uighur Buddhist Stake Inscriptions from Turfan" で詳しく読み直すので、ここでは詳説を避けるが、私はエル = カヤのみが純粹の個人名であり、その前に来るイシック = エドゥギユ = トク = オゲはイル = オゲシとは別のカテゴリーの称号ではないかと考えている。いずれにせよ、両者が同時代の西ウイグル王国で活躍した重要人物であることは間違いないところで、同一人物である可能性も十二分にあると言えよう。[森安]

手紙 H について：tüzün tngrim と trqan との間に quṭınga がないので、ここで切れるのではなく、テュズユン = テングリム = タルカンと続いており、その直後ないし 1 単語を挟んで quṭınga があつたと考えた。この読みが正しければ、これまで男性にしか使われないと考えられてきた称号のタルカンが、高位の女性にも使われることを示す実例となる。[森安]